



東北教区報 2025年1月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

振替 02210-6-2902

主の平和が皆さんと共にありますように
 新年のお慶びを申し上げます。この一年も全能の神様に守られ導かれて、それぞれの信仰生活、教会生活が豊かにされますようにとお祈りいたします。

四半世紀前は、世界中の人々の間でミレニアム(千年紀)が話題になりましたが、1990年に「ジュビリー2000債務帳消し」運動が始まりました。その目的は「21世紀をすべての人が人間らしく生きられる世界にするため」でした。途方もなく難解な理想ですが、そのためにまず20世紀が生み出した10億人超の貧困を根絶すること、貧困の最大原因の一つである途上国が抱えている巨額債務を帳消しにすることでした。

当時の最貧国では人々が飢

新年メッセージ

主に受け入れられる年を告知する

教区主教 フランシス 長谷川 清純

餓や病気で亡くなり、子ども3人に1人は栄養失調で満3歳までに死亡する一方で、債務返済のために医療や教育に十分なお金が使えません。アフリカの年間債務返済は国家予算の30%にも上り、医療予算の2倍に達していました。ですから、重債務貧困国の債務帳消しを実行してす

在でした。このキャンペーンの根拠は聖書にあります。旧約聖書レビ記25章10節以下に「ヨベルの年」が記されています。50年目の聖なる年(ヨベルII ジュビリー)には奴隷は解放



され、借金を帳消しにし、穀物を収穫しないで野に生えたものを食するようにと書かれています。

「50年目の年を聖別し、その地のすべての住民に解放を宣言しなさい。それはあなたがこのためのヨベルの年である。あなたがたはそれぞれ自分の所有の地に帰ることができ

る。」(レビ25:10)

当時、私は仙台 基督教会副牧師で 聖ペテロ伝道所に 任んでおり、仙台 市内のキリスト教会、特にカトリック教会の信徒たちと「ジュビリー2000債務帳消し」運動に関わりました。子どものいのちを代償として返済される債務は不正であり人権の侵害です。貧困に喘ぐ人たちを解放することこそが、その時代の要請でした。

あれから25年です。重要な出来事から25年、50年、60年、75年経過した時に催される記念行事や祝祭も「ジュビリー」と言えます。現在の世界では貧富格差が増し、人権侵害が

絶えず、飢餓に苦しみ、日本の人口と同じ1億2千万人以上の難民が彷徨い、戦争では数えられない程のいのちと地球を破壊しています。現実にはヨベルの年は宣言されない世界です。

しかしながら、まことの光である主イエスは病み、破れ、傷つき泣いている世に来て、すべての人を照らします。その方がこの世に来られたのは、「主の恵みの年を告げるため」(ルカ4:18-21)です。「主の恵みの年」は直訳では「主に受け入れられる年」です。つまり虐げられている人が神様に受け入れられるようなことが起こる年が告げられます。イエスはその時を宣言します。「貧しい者たちに福音が伝えられ、囚われた者たちに解放を、叩き潰された者たちを解放して行かせる」と宣言します。

私たちも主の福音を宣べ伝えましょう。主のおとずれの良きお知らせを告知しましょう。あらゆる意味での解放を宣言し、解放の実現のための一年にしたいと願う祈りましょう。

日本聖公会東北教区

第109(定期)教区会 報告

11月22日(金)・23日(土) 於 仙台

2024年11月22日(金)から23日(土)にかけて、日本聖公会東北教区第109(定期)教区会が主教会座聖堂を会場として開催されました。1日目は開会、長谷川清純主教より主教告示がなされ、

2日目は開会聖餐式から始まり、諸報告を終えた後に、「チーム北国の各セクションからの報告」が研修として実施され、宣教・組織・広報・財政の各部門から、現在行われている具体的な働きや展望が語られ、既に動き始めている北海道教区との宣教協働と教区再編について身近に感じる時間となりました。午後か

「北国セクション おぼんです2024」

今年はそのぞれの教区から三択クイズを出題。高く上げられた答えを示す指。解答を聞いて漏れる声と共に早々に引つ込められたり、正解のアップルに変わったり、教区会で眉間の皺が消え、表情も心もほぐれた楽しい45分でした。ここで皆さんに東北教区から出題。県の面積が全国で8番

目。日本最大級の砂丘がある県は？①秋田県②青森県③山形県。答えが知りたい方は教区会出席者にお尋ね下さい。答えを忘れた！「せばだばまいねえびよん。」

(教育主事 中村久美子)

ら常置委員選挙が行われ、その後15の議案が上程され、その全てが可決されました。議案では「東北教区・北海道教区宣教協働・新教区設立に向けてのミッション・ステートメント2024」が北海道教区教区会と同時に決議され、新教区設立への確かな指針を打ち立てました。また新しい宣教体制として釜石神愛教会が盛岡聖公会に合併される

ことが承認されました。釜石神愛教会としては最後の教区会参加となる信徒代議員からは、各教会からのこれまでのご支援・祈りへの感謝の言葉が述べられました。詳細は各教会に配付されます決議録をご参照ください。(編集部)

選挙結果

常置委員

- 司祭 越山 哲也
司祭 渡部 拓
司祭 八木 正言
畠山 秀文(弘前昇天教会)
赤坂 有司(仙台基督教会)
坂水 かよ(盛岡聖公会)

主教告示

主教 フランシス 長谷川清純

はじめに

本日、ここに東北教区第109(定期)教区会を開催できますことを、全能の神様に感謝いたします。またこの教区会のためにお集まりくださいました教役者議員・信徒代議員の皆さま、また教区諸役員

の皆さま、関係諸団体の皆さま、書記局、補助書記の皆さまにも感謝申し上げます。2日間にわたるご審議をどうぞ宜しく願います。常置委員会からはじめ28の部門、委員会、グループ、プロジェクト、また参考報告の団体と管区関連委員におかれましては、この1年間の尊いお働きに感謝いたします。

人事とチームミニストーリー

の異動に伴い4月、山形には八木正言司祭を管理牧師に派遣、長谷川は青森を退き仙台聖フランシス教会を管理しつつ牧師館に居住して、少ない聖職でぎりぎりの配置をいたしました。そんな中、10月31日付でドミニコ李贊熙司祭がご家族の介護に迫られて休職し、故郷の大田に一時帰国されました。李司祭とご家族のご健康のためお祈りください。昨年

の主教告示で私は「私たち東北教区では、このように信徒と聖職がバラバラではなく、主の福音を宣べ伝えるという一つの使命を遂行するために、一緒になって働くトータル・ミニストーリーを実践する方策を求めています。そのような信徒と聖職者が協働していく中から、聖職候補生が与えられますようにと祈ります。」と述べました。神様はこの祈りをお聞き届けくださり、仙台聖公会信徒のパウロ有我忠幸さんを召され聖職への良き志しを授けられて、2月2日付聖職候補生に認可いたしました。新しい聖職候補生が、この時私たち東北教区に与えられましたのは、



大きな大きな神様からのお恵みでありまさに希望の光です。有我さんは現在聖ペテロ伝道所に居住し、聖公会神学院が開講している「特任聖職特別コースオンライン講座」を受けています。彼の勉学のため、また聖職按手への導きのために皆さまお祈りいただきますようお願いいたします。

引き続き奉仕職が増し加えられますよう、この度奉仕職養成グループが新たに作られたカード「聖職・信徒奉仕職に召される人のため」を用いて、日々お祈りくださいます

ようお願いたします。本日時点で、現職司祭5名と、退職主教さまお二方のご協力をいただいて教区・教会の宣教伝道に従事しています。大変難儀な事態ではありますが、それだからこそ福音に生かされ、神様の愛に因って力を尽くしてまいるものです。

そうなのですが、実際には一人ひとりの役職は多く負担量も多い訳なので、それぞれの健康に留意し、務めが全うできますようお祈りいただければ幸いです。

少数の教役者たちに加えて、信徒奉事者が8教会42名、うち分餐奉仕協力許可が19名推挙され、牧師と共に礼拝の奉仕をされています。信徒奉事者の働きは心強いものであり、今後益々その必要性、重要性が認識されていくものです。もちろん教役者と信徒奉事者と共に信徒たちも一緒になっ

て福音を証していくチームミニストリーが中心な理想となっています。奉仕職養成グループが推し進めている、「せみなりお青葉シリーズ4」が間もなく出版されます。「奉仕のススメ」は来年も企画されています。これを基に教区全体がワンチームを作り上げていきたいと望んでおります。人々が教会の宝です。教育主事主幹の青少年の育成、幼稚園・こども園の先生たちや園児たち・保護者と信徒・教役者との信頼関係が宝物です。土地・建物は天の恵みです。新庄、鶴岡、仙台基督教会西の平聖パウロミッション、主教邸の基本財産処分による果実は宣教の原資となります。ヴァイアル山荘等教区施設は信徒・教役者の主にある交わりと憩いの家です。盛んに活用されるよう望みます。宗教法人一元化に向けては継続した動きが進行中であり、地域宣教においては釜石神愛教会と盛岡聖公会が合併する議案が上程されています。規則規程は毎年のように整えています。すべては新しく生まれ変わるための営みです。

東北教区宣教協議会

「2023年日本聖公会宣教協議会からの呼びかけ」に
 応えて、2024年11月4日、東北教区宣教協議会を仙台基督教会で開催しました。その様子は議事日程報告作成時期の都合で掲載されておりませんが、参加者にとってとても良い話し合い、思いの分かち合いの時間になったという印象でした。ポスト・コロナの集會、修養會、研修會の一つのきっかけになったのではないかと捉えています。そして参加者の声が今後の私たちの宣教に反映されて、教会や教区の方向性や展望会議へのコラボなどの展開が期待されます。

「ここからまた歩きはじめよう。いのちに任せ、となりびととなるために」



1. 神のみ声に耳を傾けよう
 2. 人々の声に耳を傾けよう
 3. 世界の声に耳を傾けよう
 となりびととなるためには、出会う人たちと共に歩み神の国に生きましよう。「いのち、尊厳限りないもの」となりびととなるために」。

ウクライナやパレスチナでの紛争はいのちを奪う残酷な行為であり、特にガザでの戦闘は無差別殺戮でありジェノサイドであり即刻停止の実現を祈るばかりです。小さないのちが奪われています。

今年の元日に起きた能登半島地震、さらに9月には豪雨に見舞われて、能登半島の被災地や避難先で暮らす人々は二重の過酷災害に襲われて、心が痛みます。地震発生から11ヶ月が経っても復旧の足取りは遅々としており、被災された方々に苦勞を強いる日々が続いております。私たちは、行政に復旧の加速化を要請し、被災者に今日の必要が与えられ、少しでも希望の光がみられるようにとできる支援と祈りを重ねたいと思います。

京都教区能登半島地震対策

室の働きに協力してまいりたいと思えます。東日本大震災被災者支援プロジェクトが報告しているように、東北で活躍していたワゴン車（うちなんちゃん号）は、京都教区に移譲され現在ボランティアたちの足として活躍の場を移しました。東日本大震災を経験している東北の私たちから、応援のメッセージと祈りを送り続けることは信仰の業です。

去る11月12日、カンタベリー大主教ジャスティン・ウエルビー師が辞任を表明しました。それは故ジョン・スマイスによる長年にわたる青少年に対する重大な虐待事件の調査報告を受け、個人としてまた組織として十分な調査や対応を行ってこなかったことを認めての辞任でした。私たちは被害者の方々に主の深い癒しを祈るとともに、教会が一層セーフチャーチの構築に努力し、すべての人のいのちの尊厳を大切に作る教会であるために祈りましょう。

私たちは、出会う人たちとなりびととなるために招かれていることを強く意識して、

共生を求めてまいりたいと思えます。

東北教区・北海道教区

宣教協働

北海道教区会では、本日午後3時の開会聖餐式で執事エリサベト三浦千晴師の司祭按手式を挙行されました。新司祭誕生はただ北海道だけでなく、宣教協働教区である私たち東北教区にとっても等しく誠にめでたい催事です。公会の司祭が与えられた大きなお恵みに、共々に感謝し喜びお祝い申し上げます。

一昨年から取り組んでいる東北教区と北海道教区の宣教協働は、この1年間具体的なアクションを次々行っております。詳細は「チーム北国」報告と明日午前中に持たれる研修に譲りますが、チームに新たに4つのセクション（宣教協働、広報、組織、財政）を設け、両教区をより深く理解し合うように努めて歩んでおります。明日の研修で受けられたご報告を皆さままで分かち合い、それを各教会に持ち帰り、必ず信徒たちにご案内されますようお願いいたします。

たします。

両教区の大方の地域は加速的な過疎地です。教会もまたしかりです。その中であつても信徒と教役者は力を合わせて宣教していきます。その歩みに必ず神様が寄り添っておられると信じて私たちは生活しています。

「東北教区・北海道教区宣教協働・新教区設立に向けてのミッションステートメント」の議案が採択する件」の議案が出されています。2025年、26年、27年のロードマップを作成しながら、私が定年退職する年の2028年4月に新教区設立を目指しております。引き続き皆さまのご理解とご協働をお願いいたします。

大田教区との協働につきましては、本年5月、大田教区主教座聖堂礼拝堂聖別式に出席しお祝いした折、教区主教テトス金 鎬旭^{キム} 主^{ホウク}教と会談し、両教区の友好協力関係を延長する事で合意しました。ただし、期間は新教区設立前の2028年3月31日までとします。

終わりに

最後になりましたが、一般財団法人白石庵敬神会には、主として東北教区の公益的な事業である「幼児教育事業」に対して多大なる援助とお支えをいただいておりますことを、心より感謝申し上げます。また東北教区婦人会のお働きと、東北教区にとっては宣教の協働者である東北教区保育連盟とその加盟園のお働きにも感謝申し上げます。また本日はこの場におられませんが、礼拝協力をしてくださっておられるヨハネ佐藤忠男主教さまとヨハネ加藤博道主教さまにも心より感謝し御礼申し上げます。

そして、今教区会にご出席いただいております一般財団法人白石庵敬神会代表理事のバルナバ赤坂有司さん、東北教区婦人会長のソフィア赤坂康子さん、東北教区保育連盟会長のアイリーン坂水かよさんを改めましてご紹介し歓迎したいと思います。

教区がイエス様のお心と行いに倣い、神と人々に仕えたい教会としてますます成長することができまますように。各々の教会の上にまた信徒、聖職の皆さまの上に、神様の豊かなお守りとお導きがありますようお祈りいたします。「しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたいたい者は、皆に仕える者となり、あなたがたの中で、頭になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。」（マルコ10：43-44）

以上



能登半島地震ボランティア報告

災害対応デスク セント・クリストファー 赤坂 聖矢

2024年11月25日から29日、京都教区能登半島地震対策室の活動に参加しました。5月下旬以来半年ぶり、2回目の参加となりました。

活動は児童養護施設として運営されていた「しお子どもの家」を拠点とし、支援先へ2時間半をかけて向かうため、朝早くに出ても十分な活動時間は取れない状況にあります。その中でもできる限りの支援をと、珠洲市に居住されている信徒の方の支援を主な活動とされています。信徒の方は自然豊かな山間で『珠洲焼』の窯元をなさっており、庭には大きな窯を備えた作業場があります。作業場にはその窯



やストーブにくべる薪もたくさん積み上げられていました。しかし、地震で薪棚は崩れ、自宅は傾き玄関の扉が開かなくなっておりました。私が初めて伺った5月時点でも、水道は復旧しておらず自宅で生活することは難しい状況にありました。片付けや再建のため仮住まいから自宅へ通う生活は、大きな労苦があったと想像できます。

5月の活動では、庭に新しい住まいを建てるためそのスペースに置かれていた丸太の薪割りや、地震で一部が崩れた土壁の解体などを行いました。信徒の方より「地震以降一時はこの地域を離れることも考えたが、住み続けられる希望も見えてきた」と前向きなお話を伺いました。しかし、6月の震度5強の地震、そして7月、9月の豪雨は、ようやく前を向いて動き出していた被災地の方々にとって、どんなに辛いもの

11月4日、仙台基督教会にて
「2024年東北教区宣教協議会」
が行われました。現職教役者、聖職候補生、各教会信徒代議員、各部門代表、幼稚園、こども園の代表、そして宣教協働を進めている北海道教区からの参加者ら総勢54名が集いました。今協議会は「2023年日本聖公会宣教協議会」にてこれからの日本聖公会の歩みの指針としていくべき『呼びかけ』がなされたことを受け、まずは『呼びかけ』の理解とそれぞれの現場での指針としていくためのきっかけづくりを目的としました。3つの呼びかけについての短い発題があり、それぞれ小グループに分かれて互いに思いを「聴き」あい、とても有意義な協議会となったのではないかと感じました。宣教協議会についての詳細は改めてご報告いたします。
(リーダー 司祭 ステパノ 越山 哲也)

活動報告の詳細はこちらをご覧ください。

京都教区能登半島地震対策室ブログ



だったか言うまでもありません。今回訪れた際に、倒木や土砂崩れ、流木が絡まって通れない橋など、水害による被害も数多く目にしました。信徒のご自宅は、隣を流れる川が溢れ床上浸水し、また基礎の一部が抉られており、被害の大きさを物語っております。今回は作業場の一部を新たな居住空間とすべく、友人の大作さんとその仲間が作業を続けられており、「なんとか雪が降る前に住めるように」ということで、その作業を手伝わせていただきました。

堅信おめでとう

川名 琴心

(8月11日・仙台)

永遠の平安

フイベ 枝松 秀子

(8月8日・仙台)

プリジェット 宮坂 富喜子

(8月16日・仙台)

エリサベツ 八柳 正子

(9月8日・山形)

ポーリン 高山 千恵子

(10月9日・仙台)

テレサ 光山 富子

(11月7日・仙台)



北海道教区

クララ 吉谷 かおる

11月の教区会も終わって、北国に冬到来。今年もクリスマスを前に、一年の歩みを振り返る頃となりました。「チーム北国」では、コアメンバーのミーティングが対面とオンライン交互に10回行われました。「宣教協働」「広報」「組織」「財政」の4つのセクションでは、ほぼ毎月のオンライン・ミーティングを重ね、対面ミーティングも一度実施しました。

教区会では、各セクションの活動内容について、詳しい報告をする時間をいただきました。また議案として提出された「東北教区・北海道教区

宣教協働・新教区設立に向けてのミッション・ステートメント2024を採択する件」が北海道と東北両教区で可決された。新教区設立に向けてのプロセスを進めるには、財政や組織についてのすり合わせだけでなく、人と人が出会い、交わり、語り合うことが必要です。

両教区会の会場をオンラインで繋いだ「北国セッションおぼんです2024」は、お互いの教区にまつわるクイズで笑いながら知識も増える、楽しい時間となりました。

この秋には10月14日に北海道教区、11月4日に東北教区で宣教協議会が開催され、お互いの教区から代表者が参加し、交流を深めました。また広報・宣教協働コラボ企画「まなびの会」第1回が10月20日に盛岡聖公会で、第2回が11月16日に札幌キリスト教会で開催され、宣教協働や教区再編についての疑問等を語り合いました。

これからも元気に「チーム北国報告」をお届けしていきます。

帯広聖公会



帯広聖公会は1892年石狩方面で伝道に取り組んでいた鯨岡寅吉師がオベリベリ(帯広)を訪れ、既に開墾のために入植していた「晩成社」の一室で説教が行われたことに始まる。以来132年の歴史の中で現在の礼拝堂は三代目(築後66年)。当時としては珍しい集成材の合掌造りによる斬新なデザインであった。現在受聖餐者は約50名、敷地は市の縄文遺跡に指定されており、先人の姿を彷彿とさせる。

ヴァイアール山荘2024閉所式報告

十和田湖畔施設活用グループ リーダー パウロ 島守 信昭

11月2日(土)、秋祭り「湖畔で秋の味覚を」と閉所式を終えることができました。心配した交通渋滞も無く、紅葉の十和田湖を眺めながら、30名の参加者が、教会ごとに持ち寄った秋の味覚を頂きながら楽しいひと時を過ごしました。今年の人気メニューは「手巻おにぎり」。炊き立ての新米ご飯に自分の好みの具材をトッピング、海苔で巻いて出

来上がり。お代わり自由で皆さん大満足しました。最後に閉所礼拝を行い冬期閉鎖に入りました。

4月27日開所式、8月10日平和の祈りと来訪していただいた皆さまに、事故やケガが無く安全に利用していただいたことに感謝申し上げます。これからも安心して利用していただけるよう環境整備に努めてまいります。

ヴァイアールクラブも3年目に入りました。クラブの設立趣旨にご理解を賜り入会して



いただいているメンバー各位に感謝いたします。お陰様でヴァイアール山荘と鉛山礼拝堂の両施設とも順調に運営することが出来ました。今後ともメンバー継続へのご理解よろしくお願いいたします。

2025年の予定は、開所式4月26日、平和の祈り8月9日、秋祭り&閉所式11月1日、いずれも土曜日です。しっかりと準備して皆さんの参加をお待ちしております。



釜石神愛教会

釜石神愛教会は2025年1月1日に盛岡聖公会と合併し、伝道所となります。

創設者の藤村哲之・美代ご夫妻は、1931年に釜石で保育園を始められました。1938年に現在地に教会と園舎を新築し、釜石神愛幼児学園を開園されました。教会ができた翌年には牧師館も新築され、皆さんの記憶にある建物の配置が出来上がりました。

筆者が亡き両親から聞いた昭和50年代には信徒も20名以上在籍していたようで、活発な集まりだったようです。司祭様ご家族が定住されるようになると、やはり人の出入りも多かったようです。幼かった頃には、夏になると盛岡聖公会との合同の修養会が釜石で開かれ、子どもを始め青年たちも多く集まり、とても賑やかな楽しい夜で、

小さな私も一緒に眠れない夜を過ごしたことを今でも覚えています。

私たちはこれから盛岡聖公会の信徒となりますが、普段は釜石に居ますので、どうぞお立ち寄りください。お待ちしております。

仙台聖フランシス教会

11月になり寒さが来ると身構えていましたが、季節がゆっくりと動いているので、晩秋とは思えない暖かい日が続いています。

東京に転居された信徒の方が牧師館の庭に植えてくださった柿がたわわに実り、美味しそうな色になっており、美味しそうな色になっており、信徒さんがみごと柿の渋を抜いてくださり、皆で美味しく頂くことができました。また、牧師夫人が干し柿を作ってください、これも美味しく頂きました。柿の葉が落ち、桜の葉が紅くなり、庭は冬の準備が進んでいます。

11月17日の日曜日聖餐式に先立ち、誕生感謝の祈りが行われました。市内にお住まいの札幌聖ミカエル教会の信徒



東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

さんご夫妻に、10月、赤ちゃんが誕生し、感謝の祈りをお献げすることができました。札幌から夫君のご両親もおいでになり、思いがけない嬉しい出来事でした。神様からの大きなお恵みに感謝です。

◆11月8日は一年ぶりの広畑での交わり「広畑お茶会2024」が開催されました。この日は北海道公演帰りのアーティスト「パキ・デ・サット」の慰問参加を得て、演奏会を実施。パキ・デ・サットは三味線の華麗な歌声とインド太鼓タブラを駆使する異色の音楽ユニットです。以前名

取市でのライブが縁で今回の演奏会となりました。なんと長谷川主教が秋田音頭で踊りを披露される程の大盛り上がりになりました。

公 示

救主降生2024年10月16日
日本聖公会東北教区主教
主教 フランシス 長谷川 清純 ㊞

下記の人事異動を発令します。

司祭 ドミニコ 李 贊熙
2024年10月31日付 弘前昇天教会牧師および青森聖アンデレ教会管理牧師、松丘聖ミカエル教会管理牧師の任を解く。
2024年11月1日付 願いにより休職を許可する。
主教 フランシス 長谷川 清純
2024年11月1日付 弘前昇天教会管理牧師および青森聖アンデレ教会管理牧師、松丘聖ミカエル教会管理牧師に任命する。以上

方々も参加し22名で賑やかに交流、Tシャツやタオルなどパキ・デ・サットのグッズも皆で購入し、心晴れ晴れの会でした。再会を感謝します。◆水曜喫茶は磯山の夏ミカン収穫の日の11月27日に行われ、全国各地から関係者が集結し、総勢19名の会となりました。差し入れも豊富にいただきました。みかんとともに近況報告話の実が豊作となりました。

(リーダー 浅原 和裕)

1月逝去者記念聖餐式

1月8日(水) 午前10時

於 主教座聖堂

司式・説教 長谷川清純 主教

執事 ヨハネ 福島 政美

2003年1月1日逝去

執事 アタナシウス 佐々木 康二郎

2020年1月3日逝去

司祭 サムエル 秋山 久之

2020年1月7日逝去

Mrs. Waller

1939年1月9日逝去

司祭 ステパノ 宮城 俊彦

1995年1月13日逝去

司祭 ペテロ 細貝 岩夫

1985年1月17日逝去

司祭 E.R.Harrison

1937年1月19日逝去

司祭 Charles H.Evans

1955年1月20日逝去

司祭 アンデレ 青木 伊八

1966年1月31日逝去